

教材教具の題材	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
リズム打ち（UFO） ～スティック（菜箸を使って）～	中	おんがく Ⅲグループ （音楽）	矢野明子

<ねらい>

- ・曲に合わせて、スティックを使って、リズム打ちをする。
- ・曲調の変化を捉えて、4種類程度のリズムが打てるようになる。
- ・曲の最後までよく聴いて、リズムを打ち続けることができるようになる。

<内容（実態）>

中学部ⅢグループAで行った題材である。聞いたリズム（1小節程度）をおおよそ反復することができる生徒が大半である。リズム譜（四分音符・八分音符など）などの理解は、大半が難しい。

4種類のリズムを習得するために、リズムの掛け合い（山田俊行氏）をアレンジして練習した。（リズムの掛け合い）

【教師】み～なさん？

【生徒】なんですか？

【教師】（習得させたい一小節程度のリズムを打つ）できますか？

【生徒】（教師のリズムを繰り返す）できますよ。

おおよそ4種類のリズムに馴染んできたところで、『UFO』の曲に合わせて、リズムを打った。リズムの変わり目は、リズム譜を指さすことで、変わることを意識させた。大半の生徒は、教師の合図を聞いたり、打ち方を見たりすることでリズムを変更することができた。2～3人の生徒は、曲をよく聞いてその曲調に合わせてリズムを打ち分けることができた。

スティックは、100円均一で購入した「菜箸」を使うことで、数をたくさんそろえることができ、たくさん的人数（生徒14人、教師7人）で打っても、ほどほどの音量で抑えられることができる。そうすることで、騒音にならず、自分が打っている音も自分で聞くことができる。

<良かった点・改善点（児童生徒の反応を含めて）>

曲自体は、古い曲ではあるが、CMソングとして、近年も利用されていることもあり、生徒にとっては、ある程度耳慣れた曲でもあったようである。また、テンポや拍の取り方もわかりやすく授業で使用する曲としては使いやすい。

菜箸をスティックとして使用したので、全員で打っても適度な音量であり、自分の音も聞き分けることができた。4種類のリズムすべてを打ち分ける分けることは難しい生徒もいたが、曲に合わせて最後まで、打ち続けるという集中力を保つことができた。同時に、そのことが課題となる生徒もいることが分かった。

リズムの内容が、Ⅲグループにしては、少し難しかったかと思ったので次回に活かしていきたいと考える。

